

令和4年度

普及指導活動外部評価実施報告書

岩手県農林水産部農業普及技術課

目 次

	頁
第 1 実施内容	1
第 2 評価結果	3
○ 農業普及技術課農業革新支援担当	4
○ 盛岡農業改良普及センター	7
○ 八幡平農業改良普及センター	9
○ 中部農業改良普及センター	11
○ 奥州農業改良普及センター	13
○ 一関農業改良普及センター	15
○ 大船渡農業改良普及センター	17
○ 宮古農業改良普及センター	19
○ 久慈農業改良普及センター	21
○ 二戸農業改良普及センター	23
添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領	25

第1 実施内容（令和4年度岩手県普及指導活動外部評価検討会実施要領）

1 目的

「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」（以下「要領」という。）に基づき、農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、一層効果的かつ効率的な普及指導活動等を展開するため、外部評価委員会の評価を受けることとしており、この実施要領をもって、令和4年度の外部評価検討会に係る運営方法等を定める。

2 実施主体

農業普及技術課

3 評価委員

「先進的な農業者」等、各区分から5名を選任した。

区分	所属等	氏名
先進的な農業者	岩手県農業農村指導士協会 会長	青沼 純一
農業関係団体	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	高橋 一樹
学識経験者	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	宮路 広武
報道機関	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	下山 隆雄
流通関係者、消費者、 民間企業	一関まちづくり株式会社 専務取締役 (新鮮館おおまち 店長)	梁川 真一

4 日程及び方法

(1) 日程

令和5年2月28日（火）10:00～16:30

(2) 方法

ウェブ会議システム（各評価委員とウェブ会議システムで接続し評価を受けた。）

5 対象課題

(1) 県重点プロジェクト

課題	公所
ア 環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の収益向上	農業革新支援担当
イ 高度な生産技術を活用した生産性向上の支援（酪農・肉牛）	農業革新支援担当

(2) 普及センターの主要な地域課題普及指導計画

課題	公所
ア 低コスト化、ICT技術及びGAPの普及・定着支援（水稻）	一関
イ 地域特性を活かした果樹の振興	大船渡
ウ ほうれんそう産地力の強化	久慈
エ 畜産経営体の経営安定	盛岡
オ 酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上	二戸
カ 産地をけん引する企業的経営体の育成 ②新規就農者の確保・育成	中部
キ 新規就農者の確保	宮古
ク 担い手の確保・育成	八幡平
ケ 次世代経営体の確保・育成	奥州

6 評価基準（視点）

項目	評価基準（視点）
課題背景 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握がしっかり行われているか。 ・支援対象をしっかりと捉えているか。 ・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。 ・根拠を踏まえて課題設定しているか。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標となっているか。 ・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。 ・関係機関等との共有が図られているか。
活動体制 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方法と活動時期は適切か。 ・所内での役割分担と連携体制は明確か。 ・県重点プロジェクト（地域課題計画）との連携が図られているか。 ・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。 ・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。
活動実績と成果 地域や対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・実績と成果が見出されているか。 ・実績と成果につながった要因を分析しているか。 ・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。
残された課題 今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・残された課題をしっかりと捉えているか。 ・今後の対応策をしっかりと設定しているか。
参考評価（プレゼン テーション）	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した資料は見やすく、発表は明瞭で分かりやすいか。

【内部評価及び外部評価の結果】

- A：ねらい通りに進んでいる。
- B：概ねねらい通りに進み始めた。
- C：ねらい通りに進めないが、展開の糸口は見えている。
- D：全くねらい通りになっていない。糸口すらない。

第2 評価結果

全11課題の各評価委員からの評価の合計は、A評価18(33%)、B評価33(60%)、C評価4(7%)であり、一部の課題でねらい通りとなっていないと評価されたが、その他は、概ねねらいどおり普及指導活動が進んでいると評価された。

なお、普及センターで実施している内部評価の適切性について、内部評価と外部評価の差を取り確認した。以下(「外部評価 < 内部評価」)5.5%、同じ(「外部評価 = 内部評価」)81.8%。以上(「外部評価 > 内部評価」)12.7%であり、適切に内部評価が行われていると考えられる。

中課題	普及センター	内部評価	外部評価				外部評価と内部評価の差		
			A	B	C	D	以上	同じ	以下
環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の収益向上	農業普及技術課	B	1	3	1	0	20.0%	60.0%	20.0%
高度な生産技術を活用した生産性向上の支援(酪農・肉牛)	農業普及技術課	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
低コスト化、ICT技術及びGAPの普及・定着支援(水稻)	一関	B	1	4	0	0	20.0%	80.0%	-
地域特性を活かした果樹の振興	大船渡	A	5	0	0	0	-	100.0%	-
ほうれんそう産地力の強化	久慈	C	0	2	3	0	40.0%	60.0%	-
畜産経営体の経営安定	盛岡	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上	二戸	B	2	3	0	0	40.0%	60.0%	-
産地をけん引する企業的経営体の育成 ②新規就農者の確保・育成	中部	A	4	1	0	0	-	80.0%	20.0%
新規就農者の確保	宮古	A	4	1	0	0	-	80.0%	20.0%
担い手の確保・育成	八幡平	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
次世代経営体の確保・育成	奥州	B	1	4	0	0	20.0%	80.0%	-
		合計	18	33	4	0	12.7%	81.9%	5.5%

令和4年度 県重点プロジェクト 外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	①環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の収益向上	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
	②高度な生産技術を活用した生産性向上の支援(酪農・肉牛)	高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役 (新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
①環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の収益向上 《内部評価B》	【青沼委員】《評価A》 ・セミナー等開催して積極的に環境制御の生産者の意識改革など積極的に取り組んでいる。 ・ウィークリーレポートなど解析の支援に取り組んでいる。	【青沼委員】 ・収量増加等に対する予想外の影響が出てきている。基本技術が不足してせっかくの技術が生かしていない。導入の際に指導が必要ではないか。 (その他) ・実証と普及を含めて今後のさらなる発展に期待したい。 ・引き続き費用対効果も含めて継続的に取り組んでほしいです。	・未収穫事案に対しては「作業工程・労務管理」支援で、基本技術不足に対しては「植物生理に基づいた栽培管理技術指導」で、いずれも次期重点プロジェクト計画で対応します。 ・費用対効果については引き続き調査を継続し、効果的な運用につなげるようマニュアルを作成・提示します。
	【高橋委員】《評価B》 ・施設園芸において、今後更に普及させるべき技術の実証を進めた内容を評価します。	【高橋委員】 ・基本的な栽培技術指導や労働力確保にも注力が必要と考えます。 (その他) ・費用対効果を考慮した提案を期待します。	・基本技術の徹底として「植物生理に基づいた栽培管理技術指導」を、労働力確保には「作業工程・労務管理」支援や「人的資源管理」支援で、いずれも次期重点プロジェクト計画で対応します。 ・費用対効果については引き続き調査を継続し、効果的な運用につなげるようマニュアルを作成・提示します。
	【宮路委員】《評価B》 ・環境制御など新たな技術を活用し、収量向上などの効果を得るためには、技術そのものの効果とともに、温度経過など、取得される様々なデータを適切に確認・検討し、必要な対応を行うことも重要である。これに対しウィークリーレポートを作成し、逐次情報を生産者に提供するなど、必要なサポートが行われ、収量向上目標も概ね達成出来ている点は評価できる。	【宮路委員】 ・一方で、基本的な病害対策や、収量増に伴う出荷労働増の課題なども示されているので、引き続き、これらの改善へのサポートを期待したい。	・病害対策を含めた基本技術の徹底として「植物生理に基づいた栽培管理技術指導」を、出荷労働増には「作業工程・労務管理」支援として、いずれも次期重点プロジェクト計画で対応します。
	【下山委員】《評価C》 ・大宗を占めるという小規模単棟パイプハウス向けに低コスト環境制御技術を普及している。	【下山委員】 ・植物生理などの知識や理解が不足したままの導入で反収向上しない事例もあったとのことだが、農家は経費を負担しているので底上げを図ってほしい。頑張ってもらってほしいので厳しく評価します。	・次期重点プロジェクト計画の中で、まずは「植物生理に基づいた栽培管理技術指導」を徹底し、その上で環境制御技術導入効果の最大限化を図ってまいります。
	【梁川委員】《評価B》 ・テーマ選定「農家の高齢化に伴い年々減少している生産量を確保・維持するために、生産性向上」を目指して取り組んでいる点。	【梁川委員】 ・設備を導入することで改善できる取り組みだけでなく、生産量減少の主な要因が「高齢化」だけなのかの現状把握を少し深掘していただきたい。また生産量を上げることが収益向上につながるのか。次の世代が同様の設備導入することで、安定的な生産量や収益を確保できることができるのか、イメージしていただき、可視化することで、より良い課題解決につながると思います。	・本県野菜生産の低迷は高齢化だけでなく農家人口の減少も要因であり、収益向上には単収向上による販売額増が必要と認識しています。このため、従来の単収向上技術に加え、「作業工程・労務管理、雇用の安定化に向けた人的資源管理」の視点も必要と考えているところです。これらの取組は現計画を再構成した次期重点プロジェクト計画で対応し、設備導入をイメージできる可視化に向けたマニュアル作成も進めていきます。

高度な生産技術を活用した生産性向上の支援(酪農・肉牛) ≪内部評価B≫	<p>【青沼委員】≪評価A≫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性向上に各地域を含めて取り組みの成果が感じられる。 コントラクターの機能強化が今後の規模拡大等に大きく影響してくるため積極的な仕組み作りがみられた。 	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手不足など労働力の改善にICTなど活用してうまく改善して行くことを期待します。 アナログ的な手法が目立つのでいろいろなIT機器を活用して人手のかからない方法を模索する必要があるのではないか？ <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関を大いに巻き込んで飼料高騰対策の一助になることを期待したいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期重点プロジェクト計画の畜産経営体育成の課題において、ICT機器の活用、牛群検定や育種価等の有益データを活用した生産効率向上を支援していきます。 飼料高騰対策に関しては次期重点プロジェクト計画の中で取り組むこととしており、飼料費の低減につながる活動をしていきます。
	<p>【高橋委員】≪評価B≫</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳用牛について給餌調査・消耗品点検・暑熱対策等、細やかな指導により乳量目標を達成した取組を評価します。 	<p>【高橋委員】</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼料・燃料等の高騰に対応できる取組み・指導を期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 飼料高騰対策に関しては次期重点プロジェクト計画の中で取り組むこととしており、飼料費の低減につながる活動をしていきます。
	<p>【宮路委員】≪評価B≫</p> <ul style="list-style-type: none"> コントラクターについては、労働力の減少が懸念される中、今後も飼料生産をサポートする機関としてその活動が期待されるが、コントラクター自体も限られた労働力の中で運営する必要があり、コントラクターの作業実績に基づき、受託面積拡大の可能性を提示するなど具体的なサポートを行っている点は評価できる。 	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善を求めるということではないが、牛の分娩間隔の短縮等については、基本的な指導を行うことでも改善することが、岩手県のこれまでの普及指導活動の中でも示されているので、引き続き、継続した支援を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期重点プロジェクト計画の畜産経営体育成の課題において、育種価や雌牛の評価値をもとにした効率的な牛群更新を支援する取組を計画しています。雌牛の評価には分娩間隔も考慮されることから、モデル経営体の繁殖成績向上に向け、引き続き分娩間隔の短縮を支援していきます。
	<p>【下山委員】≪評価B≫</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳量は目標を上回って推移した。 	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均分娩間隔は400日を切ることを目指してほしい。広域コントラクターやTMRセンターの一層の役割発揮に期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期重点プロジェクト計画の畜産経営体育成の課題において、育種価や雌牛の評価値をもとにした効率的な牛群更新を支援する取組を計画しています。モデル経営体の分娩間隔の目標値は380日～400日を想定しており、成績が向上した取組を普及拡大していきます。 次期重点プロジェクト計画の外部支援組織の育成の課題において、広域コントラクターやTMRセンターの課題解決を支援していきます。
	<p>【梁川委員】≪評価B≫</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術指導力強化をワークショップ形式で開催し、それぞれの工夫や課題を共有している点が、今後の取り組みにつながると感じました。 	<p>【梁川委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を課題としてあげていますが、その課題の要因についての分析が少ないのではないかと感じました。是非、「なぜ、畜産」を選択する人材が少ないのか深堀していただきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 畜産の新規就農においては、施設や機械の初期投資の大きさや飼料畑等の確保等の問題があるため、耕種農家に比べ新規参入が少ないと考えています。このため、第三者継承による資産継承を進めるとともに、就農した担い手の経営安定や生産性向上に向けたICT機器の活用、飼料生産を外部委託できるよう、外部支援組織(コントラクターやTMRセンター)の育成を進めていきます。

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>【青沼委員】 概ね良好に進んでいるように思われました。ウィークリーレポートや定期巡回によってデータの解析や運用の仕方についてある程度の理解等は進んでいると思われています。積極的にセミナー等開催して理解促進に努めているなど今後に向けての取り組み等も成果を上げている様に思います。今後も関係機関と連携を図って良い方向へ進むように期待します。</p>	<p>【青沼委員】 導入経営体が今後一人でうまく運用していくことが可能かどうか、新規に導入する経営体の運用理解度など、導入する経営体が多くなればなるほど運用に不安が出てくると思われます。各マニュアルやシートなどいろいろと出来ておりますが、これを見れば何でもわかるというようなトータル的な1冊のマニュアルの整備が必要のように思われました。</p>	<p>・次期重点プロジェクト計画において、本技術の自立運用や更なる高度化に向けたマニュアル策定を行います。</p>
<p>【高橋委員】 ・施設園芸において、今後更に普及させるべき技術の実証を進めた内容を評価します。ただし、費用対効果を十分に検討したうえでの実装推進をお願いします。 ・乳用牛について給餌調査・消耗品点検・暑熱対策等、細やかな指導により乳量目標を達成した取組を評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・基本的な栽培技術指導や労働力確保にも注力が必要と考えます。</p>	<p>・基本技術の徹底として「植物生理に基づいた栽培管理技術指導」を、労働力確保には「人的資源管理」支援で、いずれも次期重点プロジェクト計画で対応します(再掲)。</p>
<p>【宮路委員】 体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 改善を求めるということではないが、引き続き、地域だけでは解決できない課題の支援、情報提供等、積極的なサポートを期待したい。</p>	<p>・引き続き、地域普及センターとの役割分担を明確にししながら、研究機関や行政機関等と連携を図るとともに、普及員の資質向上に取り組み、地域課題の解決を支援していきます。</p>
<p>【下山委員】 幅広い農家の経営底上げには、低コスト環境制御技術の普及が評価できる。畜産農家の経営向上に、コントラクターの活動強化が期待できる。</p>	<p>【下山委員】 課題にも挙がっていたが、機器を導入するのであれば見合った利益が出せるよう全体の底上げを図ってほしい。事前準備段階の講習など検討してはどうか。</p>	<p>・次期重点プロジェクト計画の中で、対象に当該技術志向経営体も含めて、地域普及は「植物生理に基づく栽培管理」の指導を、革新支援担当は研修会の開催を予定しており、関係機関とも連携し、導入支援を図っていきます。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があった取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)</p>	<p>・普及指導計画等の策定に当たっては、日頃の活動等で把握した生産者の声やニーズを反映させていきます。 ・また、個別経営体の課題解決に当たっては、関係機関・団体と連携した支援チームによる生産から販売まで意識した支援活動を行っていきます。その際、食品流通や製造等に係る外部専門家の力もお借りしながら、商品開発や販路開拓等に対する支援も行っていきます。さらに、効果があった普及活動については、革新支援担当が中心となって情報を収集・共有し、横展開に努めていきます。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け、今後も検討していきます。</p>

令和4年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	畜産経営体の経営安定	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
畜産経営体の経営安定 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・データの見える化等積極的に進めており着実に成果を上げている様に思われる。 ・関係機関の役割分担と定期巡回にて情報の共有が行われ意識向上が図られている。	【青沼委員】 ・巡回等非常に良いが今後まわり切れな事など考えられるので情報播機器の活用など取り組む必要があるのでは？	・対象を絞った改善支援活動を継続しつつ、JAとの連携を行いながら、併せて、情報提供の方法を検討します。 特に、JA部会総会や各地域の若手研究グループ(既存3グループ)を通じて、活動成果は地域全体に周知する計画です。
	【高橋委員】《評価B》 ・乳量や分娩間隔については目標未達であったが、若手酪農家や選定した繁殖経営体を定期的に巡回し、詳細にわたって指導したことは評価します。	【高橋委員】 (その他) ・難しい課題と思うが、他地域の取組も収集・検討し、継続した指導をお願いします。	・革新支援担当等との連携により、他地域の優良事例等を収集し、継続した指導を行います。
	【宮路委員】《評価B》 ・和牛繁殖経営の生産性向上に関し、地域の目標にはやや及ばないものの定期的な巡回指導等の実施により、確実に支援農家の分娩間隔の短縮が実現されている点は評価できる。	【宮路委員】 ・改善を求めるということではないが、支援活動により、確実な成果も認められるが、効果の地域全体への波及に向け、継続した支援を期待したい。	・対象を絞った改善支援活動を継続しつつ、JAとの連携を行いながら、併せて、情報提供の方法を検討します。 特に、JA部会総会や各地域の若手研究グループ(既存3グループ)を通じて、活動成果は地域全体に周知する計画です。(再掲)
	【下山委員】《評価B》 ・機械の導入が要因とのことであったが、コントラクターの実績は評価できる。	【下山委員】 ・分娩間隔は400日を切るように頑張してほしい。	・対象を絞った改善支援活動を継続しつつ、JAとの連携を行いながら、併せて、情報提供の方法を検討します。 特に、JA部会総会や各地域の若手研究グループ(既存3グループ)を通じて、活動成果は地域全体に周知する計画です。(再掲) ・また、経済的損失等の周知も含め、家畜市場等をはじめとした機会を活用しながら指導します。
	【梁川委員】《評価B》 ・それぞれの取り組みに対し、目標達成していない結果もありますが、一定の効果が見えているので継続しての取り組み、改善策の立案をして次年度に結果がより良くなることを期待します。	【梁川委員】 ・「戸数の減少に伴い生乳生産量も減少し生産基盤が弱体化しているから、規模拡大志向農家等に対する生産性向上支援」が必要と考えるだけでなく、新しくチャレンジする方を増やす取り組みについても強化していただくことを期待します。	・新規就農(新規参入を含む)担当と連携しながら、新たにチャレンジする方に対して、技術的・経営的な支援を強化します。

3 総合的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せつかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・各作目のJA部会総会での発表のほか、普及事業パートナー等を活用した取組成果発表について、検討します。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました。相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではないかと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいこと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・新規就農者への支援については、課を横断しながら、技術的支援を含め、積極的に行います。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・新規就農者の早期経営安定に向け、目標未達成の要因分析、問題点を確認するとともに、課を横断しながら、生産技術や労務管理等の課題解決に向け、引き続き取り組んでいきます。</p>
<p>【下山委員】 ・活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 ・同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・地域の先輩農業者と新規就農者とのマッチング支援については、関係機関やJA部会等とも連携を強化するほか、農業振興協議会の「新規就農者早期経営安定支援事業」等を活用し、新規就農者の就農後の経営安定に向け取り組んでいきます。 (新規就農者早期経営安定支援事業:新規就農者が地域で栽培及び経営管理技術の高い先進農業者(師匠)からの指導を受けることを推進する事業)</p>
<p>【梁川委員】 ・課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 ・生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があった取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてほしい。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・普及事業パートナー等を活用することで、様々な経営者の声を聞き、様々な課題等を抽出しながら、それを解決することにより「生産者のパフォーマンス向上」を目指します。 ・また、生産者のチャレンジやマーケティングへの支援については、通常の普及活動に加え、必要に応じて農業経営相談センターの専門家派遣等も活用しながら支援を行います。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	担い手の確保・育成	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
担い手の確保・育成 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・新規就農者への支援等関係機関と一体となり取り組む内容が良く伝わりました。 ・師匠制度の取り組みなど受け入れ体勢の強化等取り組みが良く伝わりました。	【青沼委員】 ・地域の特性を生かして重点作物への推進と生業となるように天候に左右されない様な季節毎の柔軟な作物の選定が必要なのかなと思われま	・りんどうなどの地域重点作物は、新規就農者が所得を確保しやすい品目であり、地域の支援体制も充実していることから、重点的に支援します。 ・当地域は、露地栽培の品目が多いことから、気象条件に左右されないよう排水対策等の技術的支援に取り組めます。
	【高橋委員】《評価B》 ・ベテラン農業者(師匠)の指導体制の確立や経営能力向上研修会等、就農相談回数と就農者数に繋がっていると判断し評価します。	【高橋委員】 (特になし)	
	【宮路委員】《評価B》 ・個別相談、就農相談会の開催の他、研修や技術習得支援を行うなど、多様な就農支援を実施し、着実に新規就農者を確保している点は評価できる。	【宮路委員】 ・改善を求めるということではないが、就農計画における販売目標の達成については、目標を達成できていない生産者も存在するので、改善に向けた継続した支援を期待したい。	・就農計画の販売目標を達成できていない要因は、計画どおりの規模拡大ができていないこと、気象災害による減収であることから、今後も農地の確保に向けた農業委員会との連携を深めるほか、気象条件に左右されない技術的指導を行います。
	【下山委員】《評価B》 ・ベテラン農家とのマッチングは評価できる。新規就農者の確保は目標をほぼ達成している。	【下山委員】 ・ベテラン農家とのマッチングをさらに進めてほしい。 販売目標を達成した割合をもう少し引き上げてほしい。	・ベテラン農業者による指導(研修)は、研修終了後も新規就農者の相談に対応するなど、地域全体で就農者支援に取り組む有効な手段であり、次年度以降も継続して取り組みます。 ・就農計画の販売目標を達成できていない要因は、計画どおりの規模拡大ができていないこと、気象災害による減収であることから、今後も農地の確保に向けた農業委員会との連携を深めるほか、気象条件に左右されない技術的指導を行います。
	【梁川委員】《評価B》 ・ベテラン農業者を師匠とした指導体制、の関係機関、生産部会等も加わり情報共有やフォローしている部分は継続して取り組んでいただきたいと思います。	【梁川委員】 ・残された課題として出てきた内容について、生産者や関係者を巻き込んで対策の立案し、地域の困りごとを解決することを期待します。是非、マーケティングについても取り組んでいただきたいと思います。	・令和3年度に設置した「新規就農者現地支援チーム会議」は、関係機関の連携を深め、課題解決を検討する機会として有効であることから、今後も取組を継続します。 ・新規就農者の所得向上には、マーケティングの支援も重要であることから、販売チャネルの検討もチーム会議等で実施していきます。

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。 また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。 儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せっかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・新規就農者確保、育成の取組について、新規就農者現地支援チーム会議やワンストップの就農相談会などの機会を活用し取り組み内容の共有を図っていきます。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました。相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・新規就農者の営農継続には、所得確保が重要であることから、販売額向上の栽培指導とともに、低コスト生産技術等経費の圧縮もついても指導していきます。 ・新規就農者の指導の際に、必要に応じて補助事業や有利な資金の活用を誘導していきます。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取組に対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・新規就農者の営農の課題解決に向けて、関係機関と連携した課題の抽出や経営改善指導に継続して取り組みます。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・ベテラン農業者による支援は、研修実施時以降も継続した取組が必要であることから、新規就農者と師匠との円滑な交流が継続できるよう支援します。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があつた取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・新規就農者の課題解決に向け、新規就農者との情報交流や関係機関が連携した支援が有効であることから、新規就農者現地支援チームを中心に、関係機関それぞれの立場からの支援を継続します。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	担い手の確保・育成	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
産地をけん引する企業的経営体の育成 ② 新規就農者の確保・育成 《内部評価A》	【青沼委員】《評価A》 関係機関と連携して新規就農への取り組みに成果が見られます。 積極的に各種研修会を開いて経営発展の手助けは、新規就農者への手助けになっていると感じました。	【青沼委員】 ・オンライン相談会は、非常に有効かと思いますが、実際現地等見ないで進めるにはハードルが高いと思われます。 時間的には有効ですが、運用には一考あるかも知れません。 (その他) 今後いろいろと関係機関との範囲を広げながら新規就農者へますますの働きかけを期待します。	・令和5年度に、オンライン相談会の持ち方を関係機関・団体と協議し、整えていく予定です。その際、オンライン相談会と併せて、希望する就農地域での見学会の開催や短期研修・長期研修への参加誘導も行っていきたいと考えております。 ・新規就農希望者の多様な要望に応えられるような体制を整えていきたいと思っています。
	【高橋委員】《評価B》 ・ワンストップ就農相談窓口や長期研修・JAとの連携など、新規就農者獲得に繋がる取り組みについて評価します。 ・管内各市町において相談者数も増加しており、良い取り組みをしています。	【高橋委員】 ・欲を言えば、新規就農者の経営目標達成割合を50%ではなく、もう少し高めに設定し、改善を指導いただきたいと思っています。	・令和5年度からの新たな普及計画において、経営目標達成割合の目標値について検討したいと思っています。新規就農者が目標達成できるよう、支援していきたいと考えております。
	【宮路委員】《評価A》 ・ワンストップ就農相談窓口等の設置の他、研修受け入れ態勢の整備など、充実した就農支援が実施され、目標にはやや及ばないものの、着実に認定新規就農者(計画作成支援数)を確保できている点は評価できる。また、PDCAシート等を活用して経営改善指導を行うなど、就農後の支援も実施し、経営目標達成割合も目標を達成している点は評価できる。	【宮路委員】 ・改善を求めるということではないが、認定新規就農者の中には、経営目標を達成できていない生産者も存在するので、経営改善に向けた継続した指導を期待したい。	・PDCAシート等を活用し、課題解決に向けた指導を行うとともに、様々な課題に対応できるよう技術指導担当や経営指導担当と連携し、継続した支援を行ってきたいと考えております。
	【下山委員】《評価A》 ・ほぼ計画通りの実績を上げている。	【下山委員】 ・経営目標の達成率を引き上げるノウハウをさらに高めてほしい。	・PDCAシート等を活用し、課題解決に向けた指導を行うとともに、様々な課題に対応できるよう技術指導担当や経営指導担当と連携し、継続した支援を行ってきたいと考えております。
	【梁川委員】《評価A》 ・課題背景、テーマ選定に対してのアクションがシンプルではありますがしっかり整備されていると感じました。その結果が数値でもあらわされていると思います。今後も生産者の声を集めながら、地域の力となる生産者の確保、育成、発掘に期待します。	【梁川委員】 (特になし)	

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。 また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。 儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せっかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・様々な機会を通じて、普及センターの取組を関係機関・団体と共有していきたいと思います。 また、これまでも「いわてアグリベンチャーネット」で、普及現地情報を発信してきており、引き続き普及センターの取組について情報発信していきます。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありましたが、相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではないかと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・再生産が可能となるよう経営を意識させ、所得が確保されるような支援を行っていききたいと思います。 また、新規就農者の課題解決に向けた研修会の開催やネットワーク作りを進め、安定的に所得確保ができる経営体育成を進めていきたいと考えています。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取組に対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・PDCAシート等を活用し、課題解決に向けた指導を行うとともに、様々な課題に対応できるよう技術指導担当や経営指導担当と連携し、継続した支援を行ってきたいと考えております。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・新規就農者の個々の個性や特性により、結果が大きく異なることがあります。多様な研修受入経営体の整備を進め、より効果のあるマッチングを進められる体制を整えたいと考えております。 また、研修受入経営体を対象に、情報交流を目的とした会の実施を検討するなど、受入経営体への支援策を検討したいと思います。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があった取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・新規就農者の課題を汲み取りながら、所得向上につながる支援を検討していきたいと思います。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	次世代経営体の確保・育成	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
次世代経営体の確保・育成 《内部評価B》	<p>【青沼委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住コーディネータと連携しての相談対応がされて幅広くなされている点が良いと思われま。 ・現地見学会や体験会の回数も多いよう新規就農を考える方には大変ありがたいのではないかと思います。 	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農計画の未達が気になります。天候などの影響もありますが、もう一歩踏み込んで利益を残せるような指導を検討願います。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・師匠制度の師匠を若手に切り替えたのは良かったと思います。と同時にベテラン師匠とのコラボにするともっと効果が上がるのではないかと思います。特に技術面などで有効と思われま。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農計画の達成に向けて、作目担当や関係機関と連携して、新規就農者が抱える課題を早い段階から改善に導くことが出来るよう巡回指導を強化します。 ・就農希望者が就農を決意する段階においては、少し先輩となる就農したての若手農業者との意見交換等が就農イメージの醸成に非常に有効と考えられました。 <p>就農後、早期技術習得の段階においては農業農村指導士等のベテラン農家による技術指導が早期技術習得に有効ですので、引き続きご指導いただきますよう御協力をお願いします。</p>
	<p>【高橋委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農相談等の様々な手段によるPR、「就農相談窓口の日」の設置、研修支援等により新規就農(自営・雇用)に繋がっていることを評価します。 	<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農相談等の様々な手段によるPR、「就農相談窓口の日」の設置、研修支援等により新規就農(自営・雇用)に繋がっていることを評価します。 <p>【改善を求める事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農計画の作成において、認定新規就農者30名を確保して年間目標7名は少ないと考えま。目標を高めに設定し、計画作成を重点取り組みとしてはどうでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間で確保した認定新規就農者は30名であり、一年あたり平均7.5名になります。一人ひとりで研修期間が異なるので、計画作成と就農時期が一律にリンクはしませんが、計画作成を支援した方は概ね認定新規就農者になっています。 ・さらに多くの担い手確保に向けて、担い手支援制度の周知や就農イメージの醸成機会の設定に加え、就農希望者との個別相談を通じて計画作成を引き続き支援します。
	<p>【宮路委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な就農相談の実施や就農情報の積極的な提供に取り組んでいる他、移住コーディネーターと連携した取り組みなど、広範な活動による就農支援に取り組んでいる点は評価できる。 また、師匠制度による新規就農者への営農支援など、生産者による支援の枠組みも活用され、効果も認められる点も評価できる。 	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善を求めるということではないが、就農後の目標販売額の達成については、達成できていない生産者も存在することから、継続した支援を期待したい。また、移住コーディネーターとの連携など、引き続き、広範かつ多様な就農支援を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農計画の達成に向けて、作目担当や関係機関と連携して巡回指導を強化し、新規就農者が抱える課題を早い段階から改善に導くことができるよう改善します。 ・担い手確保には、移住人口の増加が不可欠です。引き続き市町移住コーディネーターと連携を図り、当地域への移住を伴う就農希望者に寄り添った相談対応を行います。
	<p>【下山委員】《評価B》</p> <p>師匠制度の実績があり、青年農業士になる人がいるなど評価できる。また、就農間もない人が体験会の講師になる取り組みは評価できる</p>	<p>【下山委員】 (特になし)</p>	
	<p>【梁川委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題背景に対する取り組み、到達目標をより高い位置をめざし、活動していることは今後の地域発展につながると感じま。情報共有についても、農業関係者以外に対してもアプローチしている点等、積極的にPR活動していることが結果につながっていくと感じま。 	<p>【梁川委員】 (特になし)</p>	

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せっかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。 普及センターの活動内容への理解を深めていただけるよう、地域での発表機会の設定について検討します。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました。相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。 新規就農者へのフォロー策については課題認識を持っており、新規就農者が抱える課題を早い段階から解決できるよう巡回指導を強化します。 また、計画作成個別相談等の機会も通じて手取り確保とともに計画的な経営発展が可能となるよう支援します。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・新規就農者へのフォロー策については課題認識を持っており、新規就農者が抱える課題を抽出して、早い段階から解決できるよう巡回指導を強化します。 また、計画作成個別相談等の機会も通じて手取り確保とともに計画的な経営発展が可能となるよう支援します。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・さらに就農者を増やすため、優良な取組事例の共有化を図るなど、各普及センターの活動がさらに効果的なものとなるよう主管課と協議し改善を図ることとします。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があつた取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・ご指摘ありがとうございます。 新規就農者との意見交換を通じて抱える課題を把握するとともに、早い段階で改善が図られるよう巡回指導の強化や計画個別相談の充実を図ります。 また、収益向上の実現に向けて、関係機関と連携を図りながら、専門家派遣等を含む経営発展支援を行います。 さらに、各品目の若手生産者を対象に流通販売などのマーケティングの取組の支援を行います。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	低コスト化、ICT技術及びGAPの普及・定着支援(水稻)	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
低コスト化、ICT技術及びGAPの普及・定着支援(水稻) 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・低コスト化に向けていろいろと検討して実施している。乾田直播の有効性に着目して実証している。GAPの認証には労力等かかるが継続して取り組んでいる。	【青沼委員】 ・転作作物との組み合わせでようやく成果が出るが、主食用米での根本的なコスト削減は無理だろうか？ GAP認証の法人としての理解はあるが、個々の理解を深めないと継続していくのは大変そうに思えた。 (その他) ・GAPに取り組んでの良い面をもっと積極的にアピールしていけばさらに他の導入にもつながると思われる。	○主食用米でのコスト削減の可能性について以下のとおりと考えます。 ・①収量向上(多収品種導入、地力向上、直播等栽培技術の向上)、②基盤整備済みの大区画ほ場の集積・集約、③必要最小限の農薬使用、④他の土地利用型作物との機械汎用利用、⑤販売先・販売方法の検討 ・上記②④については、他の土地利用型作物との組み合わせにより効果が期待される項目です。 ・経営体に応じた省力技術の導入は勿論ですが、収量が向上しなければ主食用米の根本的なコスト低減に結びつかないと考えます。 以上より、品目のバランスを考慮しつつ、米の生産性向上についてモデル農家を選定して支援していきます。 ○GAPの取組については、JA部会内で先導的農家の取組が共有されるよう働きかけていきたいと思ひます。
	【高橋委員】《評価B》 ・JAいわて平泉「金色の風」のGAP認証更新に伴う指導・結果について評価します。	【高橋委員】 ・乾田直播に伴う生産費の圧縮については資材高騰も影響していると思うが、十分な費用対効果を考慮したスマート農業技術の導入をお願いします。 (その他) ・GAP全体の取組みとして、今後取引先・実需にてGAP取得を求められることが多くなると思われます。取得更新費用や価格転嫁の難しさを考慮した今後の指導をお願いします。	・経営体と課題の優先順位を検討したうえで、スマート農業技術の導入について助言していきたいと考えます。また、生産費に対する乾田直播導入効果を把握していきたいと思ひます。
	【宮路委員】《評価B》 ・乾田直播栽培の普及支援など、低コスト生産に向けた新技術の導入に対する支援も積極的に行われ確実に実績が出ている点の他、GAPの取組に関しても目標を達成している点は評価できる。	【宮路委員】 モデル経営体における主食用米のコスト低減については、なかなか厳しい状況にあるが、低コスト栽培技術の導入の他、他作物の導入も含めた作期、作付面積の拡大などの効果も含め、コスト低減に向けた継続的な取り組みが進められることを期待したい。	・経営体に応じた省力技術の導入は勿論ですが、収量が向上しなければ主食用米の根本的なコスト低減に結びつかないと考えます。 ・多収品種の導入等による米の生産性向上を主テーマに、他品目を含めた営農計画についてモデル農家を選定したうえで支援していきます。
	【下山委員】《評価B》 ・持続可能性の向上や消費者の支持を得る動機としてGAPの普及は望ましいと思ひます。	【下山委員】 ・農水省の政策変更のため、仕方ない点ではあるが県版GAPではメリットが小さくなってしまった。ASIAGAPは農家の負担も大きいので、中間段階の目標を設定できないでしょうか。	・部会の中で中心的な取組をしている生産者グループは、ASIAGAP認証継続を目指すこととしています。一方県版GAPに取り組んできたグループは、生産場面のこれまでの取組を継続していく予定であり、それぞれ意向に沿った形での支援を行っていきます。

	<p>【梁川委員】《評価A》 ・今回の取り組みを通して、生産者の経営改善につながると感じました。説明にある通り「コスト意識の向上、経営者の意識改革、農場内の意思疎通の改善」につながり、今後の担い手に対してつなげていける取り組みと感じました。現場の声を拾いながらの取り組みに今後も期待しております。</p>	<p>【梁川委員】 (その他) ・継続して取り組みしていただくことを期待しています。</p>	<p>・GAPの「考え方・取り組み方」を個別経営体の経営改善の一手法と位置づけ、支援に活用していきます。</p>
--	---	--	--

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せつかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・毎年2月頃に、農業農村指導士、関係機関を招いて、活動紹介の場を設定しています。普及課題は各課から1課題程度、その他に調査研究等の紹介をしています。今後もこのような普及センターの活動をご理解いただく場を設定して参りたいと思います。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました。相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではないかと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいこと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・就農希望者に対する就農前研修の実施及び就農計画の作成を支援するとともに、経営的な感覚の習得を促したいと思います。 ・就農後はサポートチーム及び個別の巡回指導や研修会の開催及び参加誘導により、就農計画の達成を支援していきたいと思います。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・Iターン就農した方は身近な相談相手が少なく、悩みを抱える事例も見られることから、サポートチームや個別巡回指導により、就農計画の達成に向けて必要な支援をしていきたいと思ひます。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・当地域では、一関地方トータルサポートシステムにより、新規就農希望者をJAの臨時職員として採用し、研修する制度があり、就農前に最低限必要な栽培を修得する仕組みがあります。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があつた取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・普及事業パートナーや生産部会等と連携しながら、課題の把握と改善に向けた意見交換を行い、必要な分野の専門家を派遣するなど、生産者の意欲向上に繋がるような支援を継続して行きたいと思ひます。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

令和4年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	地域特性を活かした果樹の振興	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
地域特性を活かした果樹の振興 《内部評価A》	【青沼委員】《評価A》 ・改植・団地化等事例の紹介では担い手に集積する際に同時に改植してうまく進んでいる。 ・各機関が同じ方向へスクラムを組んで進めている状況が良い成果を上げている様に思われた。	【青沼委員】 ・病害虫や技術的面をもっと取り組んで安定生産確保を目指してほしい。	病害虫や技術面の指導について、集合指導会や個別巡回などで、随時実施しています。 次年度は、新規栽培者や規模拡大志向者への技術向上支援を重点的に実施する予定です。
	【高橋委員】《評価A》 ・りんごの改植について、チラシ作成や改植計画作成支援などの取組みをおこない、改植・園地仮受面積の目標を達成したことを評価します。 ・ゆず、甲子柿について、指導会・研修会の開催により生産量を増加させた取組を評価します。	【高橋委員】 ・りんごの次期有望品種の選定について、生産者の要望や生産のし易さも重要だが、「高収益」を目指すのであれば販売時の優位性も考慮をお願いしたい。(JA系統出荷の有無は別として)	現在推進している品種は、販売単価や作業性などを総合的に考慮して選定しています。果実品質についても、糖度が高い、着色良好、みつ入り良好など様々な優位性を持っている品種です。 次期有望品種の選定について、生産者、農協、市場等関係機関の意見を幅広く収集し、生産者の収益性向上が図られるよう進めていきます。
	【宮路委員】《評価A》 ・りんごについては、改植実施面積、規模拡大指向者の借受面積が着実に増加し目標を達成している点は評価できる。また、担い手へのアンケートを実施し、改植など、今後の経営意向についても把握しており、今後も目標の順調な進捗が期待される。	【宮路委員】 ・改善を求めるということではないが、りんご園地の貸借に係る情報のデータベース化など、計画が着実に実施されることを期待したい。また、ゆず、かきについても、隔年結果軽減技術など、課題解決に向けた継続した取り組みを期待したい。	提言事項について、普及計画に位置づけ、課題解決に向けた継続した取組を実施します。
	【下山委員】《評価A》 ・甲子柿の生産量増加が著しい。りんごの改植や担い手への集積の目標を達成している。	【下山委員】 ・北限のゆずは何かブランド化の仕掛けができないか。	北限のゆずは、実需者からの引き合いが強く、生産量が足りていない状況です。 ブランド化を進める上で、生産体制の脆弱さが最も大きな課題となっているので、引き続き北限のゆず研究会と協力し、生産拡大を進めていきます。
	【梁川委員】《評価A》 担い手アンケート等、地域の現状把握をしっかりしている中で、今後の改善、取り組みについて立案している為、今後成果が期待されると感じました。 ゆずについても、現場の方から需要は大きくあると聞いておりますので、集荷量が伸びるよう、普及センターさんのアドバイスや戦略の立案等も現場の方と一緒に取り組むことを期待します。	【梁川委員】 (特になし)	

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。 また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。 儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せつかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>令和4年度は、次期普及指導計画(令和5～8年度)に係る意見交換会を開催し、普及センターの取組について、市町やJA、生産者の方と意見交換を行いました。 次年度は、農業振興協議会や認定農業者協議会の研修会などで、普及センターの取組を発表する機会を設けることができるか検討します。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました。相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいこと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>新規就農者の個別巡回を通じて、品質向上や経費削減等の支援を行います。また、必要に応じて県立農業大学校等が開催する研修会への参加誘導するとともに、農業振興協議会事業を活用して研修参加費用を支援します。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取組に対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>新規就農者の個別巡回と研修会の開催を通じて、新規就農者の課題の把握とその解決に向けた支援を行います。また、必要に応じて県立農業大学校等が開催する研修会への参加誘導するとともに、農業振興協議会事業を活用して研修参加費用を支援します。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>当普及センター管内では、師匠制度を実施していませんが、就農に向けた技術等の習得が必要な方には、新規就農者受入経営体の紹介を行っています。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があった取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>生産者の課題解決支援について、当センターでは、次期作が始まる前に生産者と現状分析や課題抽出、改善策の検討を行い、生産者が目指す方向に沿った支援を基本としています。 また、マーケティングについては、生産者の意向を把握し、論点を整理したうえで、いわて農業経営相談センターの専門家派遣事業の活用などで対応しています。 なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

令和4年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	新規就農者の確保	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
新規就農者の確保 《内部評価A》	<p>【青沼委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三者継承・新規事業の活用など地元で根ざした取り組みは評価出来ると思います。 地域おこし協力隊など地元の自治体の協力も大きいので今後ますますの発展を期待します。 	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関の情報共有に少々不安を感じました。是非連携してこの地域に根ざす取り組みを期待します。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 酪農と共に畑わさびの発展を大いに期待します。 フォローアップをよろしく願います。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携について、定期的に情報共有する場を設けて、連携が強くなるよう意識して取り組んで参ります。 酪農と共に畑わさびも当地域の基幹品目ですので、地域おこし協力隊についても関係者と連携して、積極的に支援して参ります。
	<p>【高橋委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者確保のため、体制の整備やアクションプランの実践等により成果が出てきていることに対し評価します 	<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前配布資料と説明資料との作成度合が大きく、どこを説明しているのか判断できなかったため、改善をお願いします。 就農相談数は増加しているが、新規就農者は伸び悩んでいる部分の検討・改善をお願いします 	<ul style="list-style-type: none"> 情報量を詰め込みすぎて整理や説明が不十分な面があったかと思えます。今後留意して改善して参ります。 より多くの就農につながるよう、就農前研修の充実及び新規就農者の動画作成、圃場見学会の継続などを計画に入れ、PDCAを回しながら就農率の向上に向けて取り組んで参ります。
	<p>【宮路委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> アクションプランに基づく就農相談、就農支援に積極的に取り組み、着実に就農相談者、新規就農者を確保している点は評価できる。また、地域の実態も踏まえ、第三者継承支援も着実に実施されている点も評価できる。 	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善を求めるということではないが、地域的に非農家の就農希望者も多い実態を踏まえた多様な支援の継続を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見を踏まえて、相談者の状況に応じた効果的な支援になるよう、関係者と連携して積極的に支援して参ります。
	<p>【下山委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三者継承の実績は評価できる。 	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就農希望者の就農率をさらに引き上げてほしい。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 手元の資料と発表内容を付き合わせにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 就農率の向上に向けて、就農前研修の充実及び管内の新規就農者の動画作成、圃場見学会の継続などを計画に入れ、PDCAを回しながら関係者と連携して取り組んで参ります。 情報量を詰め込みすぎて整理や説明が不十分な面があったかと思えます。今後留意して改善して参ります。
	<p>【梁川委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者確保に対するアクションがシンプルではありますが、しっかり取り組み、サポートできていると感じました。 販路を含め、マーケティングの部分についても普及センターにてサポート、フォロー、情報収集し、就農に興味を持つ方に可視化することで、今後も大きく結果を残せると感じました。 今後も継続してチャレンジしてくれることを期待します 	<p>【梁川委員】</p> <p>(特になし)</p>	

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。 また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。 儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せっかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・普及センターの仕事を地域や関係者に紹介して理解を深めてもらうことも大事だと思いますので、検討していきたいと存じます。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありましたが、相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではないかと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・新規就農者のフォローについて、計画に入れて取り組んで参ります。また、経営安定に向けて、生産技術指導とともに目標達成に向けた経営指導も進めて参ります。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・新規就農者の目標達成に向け、普及センターの新規就農担当、技術担当、経営担当が連携して総合的な支援を継続して参ります。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たったの目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・優良事例の情報を共有しながら支援を充実し実績が向上するよう努力して参ります。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山聞いていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があつた取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・御意見いただいたところの、地域の現状や課題を整理し、現場の声を拾いながら、計画策定の作業を行っているところですが、改めて御意見を踏まえて、作業を取り進めて参ります。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

令和4年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	ほうれんそう産地力の強化	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
ほうれんそう産地力の強化 《内部評価C》	【青沼委員】《評価B》 ・ミスト導入により出荷量の拡大が計れた。 部会や若手生産者に向けた指導が成果につながっている。	【青沼委員】 ・病害・遮光等の対策の今一歩踏み込んで原因・対策を検討する必要があるのでは？ (その他) ・補完する新たな作目の導入も積極的に取り入れて収入増加に取り組んでほしいと思います。	・病害対策や遮光幕の活用などの既存技術の徹底に向けて、導入の阻害要因となっていることを解決できるように、部会リーダー(産地リーディングサポーター)や関係機関・団体らとともに生産者巡回を行います。 ・ほうれんそうを補完する品目の導入に向けて、園芸品目圃場見学会や園芸品目新規栽培者確保説明会を開催し、栽培者の確保を目指します。
	【高橋委員】《評価C》 ・夏季安定生産のため、比較的安価なミスト装置を普及実証したことは評価します。	【高橋委員】 ・夏場の暑さや病害を主要因としてR4年度の出荷量(平均)が減少したことは、もう少し指導の徹底ができたのではと考えました。	・上記の既存技術の徹底に向けた指導に加え、ミスト装置等を活用した高温対策技術の確立と定着を図ります。
	【宮路委員】《評価C》 ・高齢化に伴う生産者の減少など、ほうれんそう生産量の確保・増大に向け厳しい状況にはあるが、夏季の作付面積、生産量の確保など、課題が把握されている点は評価できる。	【宮路委員】 ・販売額、生産量に係る2つの目標とも達成できていない状況にあるが、夏季の安定生産技術の徹底やミストなど新技術の導入、担い手経営の育成、支援を通して、目標に近づける継続した取り組みを期待したい。	・生産技術の導入とともに、部会員相互の情報共有を図り、産地をけん引する担い手の育成を図ります。
	【下山委員】《評価C》 ・ミスト装置は、冷却効果や薬剤散布など今後も活用できるのではないかと。そうした研究成果も出ていたように思います。	【下山委員】 ・販売額500万円以上の生産者の割合や1経営体当たり出荷量の目標に届いていない。課題設定自体は間違っていないと思うので継続的に取り組んでほしい。	・生産技術の導入とともに、部会員相互の情報共有を図り、産地をけん引する担い手の育成を図ります。
	【梁川委員】《評価B》 ・地域課題に対し、夏場の出荷量にポイントを絞って取り組んでいる為、目指すべき姿に近づける取り組みと感じました。 「若手生産者のリストアップと経営課題の明確化」、「経営課題に対する個別重点指導」を徹底して行うことで、産地力の強化につながることを楽しみにしています。	【梁川委員】 ・残された課題で報告されている内容は決してマイナス要因ではないと思います。継続して取り組みを期待します。	・生産技術の導入とともに、部会員相互の情報共有を図り、産地をけん引する担い手の育成を図ります。

3 総合的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思います。せつかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？ 普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思います。是非お願いしたいと思います。</p>	<p>・提言していただいたように、地域で発表する機会を設けたいと思います。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありましたが、相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではと思います。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・ご指摘いただいたように、所得の確保が最も重要であり、資材高騰の折り、どのようにコスト低減できるかといった指導が今最も求められていると感じています。 集合指導や個別指導それぞれの場面で、コスト低減のための指導を実施していきます。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・新規就農者に対しては、部会リーダーや関係機関ともに巡回し、技術面、経営面での課題解決を指導するとともに、初期投資の負担軽減のための中古ハウス・機械等を地域で斡旋する仕組みづくりに取り組んでいきます。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思います。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・直接、師匠制度を取り入れてはいませんが、先行事例の情報収集を行い、部会リーダー(産地リーディングサポーター)の役割を考えるうえでの参考にしたいと思います。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。 何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。 現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。 また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があった取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思います。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・ご指摘いただいたとおり、一人でも多くの生産者が自身の収益向上につながる取組ができることが大切なことと考えております。 新規園芸品目栽培の導入促進に取り組んでいきます。 ・マーケティングに対する取組についても検討したいと思います。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

令和4年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和5年2月28日 10時00分～16時30分	酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	報道機関
		梁川真一	一関まちづくり株式会社 専務取締役(新鮮館おおまち 店長)	流通関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上 《内部評価B》	<p>【青沼委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産と消費に結びつけるべくいろいろな取り組みは評価出来る。 	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛肉生産の取り組みをもっとPRしても良いのではないかと？ (その他) ・県の重点プロジェクトと絡めてますますの成果を期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉生産の取組については、農家への情報提供やイベントの開催などにより積極的にPRを行っているところです。当センターにおける次期計画では一般活動の位置づけとするものの、二戸地方農林水産振興協議会の活動として継続して取り組むこととしており、関係機関・団体の他、地域の企業と一層の連携強化の上、管内農家への取組の波及及び定着、特色ある牛肉の認知度向上を図るため支援してまいります。優良繁殖牛群の構築や子牛の発育確保による収益性の向上など、課題解決の優先度を考慮し県の重点プロジェクトとの関連を検討してまいります。
	<p>【高橋委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養管理マニュアルの作成・配布や子牛の指導会(目揃い会)など、工夫した指導内容について評価します。 ・地域産出物である「酒粕」を飼料とした育成については、まだ検証段階ではあると思いますが、地域ブランド化による生産者の意欲向上に繋がる取り組みを評価します。 	<p>【高橋委員】</p> <p>(特になし)</p>	
	<p>【宮路委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した巡回指導等により、確実に繁殖雌牛の分娩間隔の短縮を実現している点は評価できる。また、子牛育成に関してもマニュアル作成による指導の他、これまであまり注目されてこなかった育成途中の状態の確認・評価を行う会の開催など、多様な視点での支援を行っている点は評価できる。 	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善を求めるということではないが、確実な効果も確認できるため継続した支援を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当センターにおける次期計画において、「酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上」として地域重点課題に位置付けており、地域全体の市場価値向上を図るため、黒毛和種子牛の飼養管理技術向上など支援を継続してまいります。
	<p>【下山委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4、5カ月齢時の目そろえ会実施などの取り組み。平均分娩間隔が400日を切っている。 	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の酒かすは、うまく活用すればブランディングにも有効ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・酒粕は嗜好性も高く、経産牛の肉質改善にも有効と考えられており、また、生産された牛肉は購入した消費者からも好評を得ております。牛肉の名称も決まっており一層の認知度向上が必要と考えております。当センターにおける次期計画では一般活動の位置づけとするものの、二戸地方農林水産振興協議会の活動として継続して取り組むこととしており、関係機関・団体の他、地域の企業と一層の連携強化の上、地域の特色ある牛肉として広く認知されるよう引き続き支援してまいります。
	<p>【梁川委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や現場の底上げをしていくには、それぞれ取り組みに対する可視化や情報共有が必要と思われます。マニュアルの作成や若手生産者の育成を踏まえた定期巡回等は、現場の声をひろうことで今後につながる取り組みと感じました。また「地域の特色ある牛肉生産の取組」についても期待します。 	<p>【梁川委員】</p> <p>(特になし)</p>	

3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】 地域のそれぞれの課題について取り組んでいる様子が良くわかりました。また、取り組んだ成果も少しずつではありますが結果を出しているように思われます。儲かる農業への誘導が最終地点だと思いますのでこれからも新しい技術を取り入れながら地域のために取り組んでいただきたいと思ひます。</p>	<p>【青沼委員】 各普及センターでは今回の発表の他に様々な課題に取り組んでいる事と思ひます。せつかくの取り組みですので地域で発表する機会を設けてはどうでしょうか？普及センターと地域のコミュニケーション作りにも一役買って理解を深める良い機会になると思ひます。是非お願ひしたいと思ひます。</p>	<p>・次年度計画への反映はしてないものの、二戸農業改良普及センターでは、令和元年度は「普及活動発表会」として普及事業パートナーや関係機関を対象に開催し、令和2年度からは「普及センターの普及活動紹介(抜粋)」として、普及事業パートナーや関係機関等に情報提供を行っています。今後も継続して情報提供を行うこととしています。</p>
<p>【高橋委員】 ・新規就農者確保に関する指導活動に関して4つの発表がありました、相談窓口のワンストップ化やベテラン生産者への師事などの共通的な取り組みに加えて、各地域で工夫を凝らした手段により、一定の新規就農者を確保していることについて、評価させていただきます。 ・畜産酪農関連の指導活動発表も多かったと感じますが、やはり昨今の飼料・燃料等高騰による危機感もあるのではと思ひます。各地域で生産者に対する細やかな対応に対して、評価します。</p>	<p>【高橋委員】 ・新規就農者のフォローを手厚くおこなっていただきたいことと、販売額・数量だけの指標ではなく、手取りの確保も重点的に確認・指導をお願いします。農畜産物の再生産に関わる重要な部分ですので、対応をお願いします。</p>	<p>・次年度計画においても「次世代を担う新規就農者の確保・育成」として地域重点課題に位置付けて、新規就農者の発展段階に応じた課題や、販売目標達成率の向上など継続した支援に取り組むこととしています。</p>
<p>【宮路委員】 全体として、背景及び課題の整理、把握に基づき計画が策定され、支援が実施されている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 新規就農者の販売目標等の達成については、達成出来ていない生産者も存在することから、生産技術、労務管理等も含め具体的な課題の抽出、改善への取り組みに対し、継続したサポートを期待したい。</p>	<p>・次年度計画においても「次世代を担う新規就農者の確保・育成」として地域重点課題に位置付けて、新規就農者の発展段階に応じた課題や、販売目標達成率の向上など継続した支援に取り組むこととしています。</p>
<p>【下山委員】 活動に当たっての目標設定と実績の記録は、分かりやすい。目標に到達できない場合の分析も適切であったと思ひます。</p>	<p>【下山委員】 同じ師匠制度を実施していても実績に開きがあった。情報交流を図るなど実績の引き上げを図ってほしい。</p>	<p>・次年度計画に向け、「二戸地方新規就農者確保・育成アクションプラン(令和5～8年度)」を策定したところです。 この中で、就農志向者のニーズに合わせた研修の受入経営体登録を進めることとしており、新規就農者へ随時アドバイスできる体制を検討・推進することとしています。</p>
<p>【梁川委員】 課題に対し、しっかりアクションプランを設定し、現状把握、対策の立案、効果の確認等を各地域取り組みされていること、評価できると同時に今後も継続、深堀して取り組んでいただくことを期待します。</p>	<p>【梁川委員】 生産者の困りごとを解決する目線でのアクションプランを期待します。何を取り除くことで、生産者のパフォーマンスが向上するのか。現場の声を沢山ひろっていただき、今後、さらに地域の生産力であったり、収益向上、一人でも多く生産者としてチャレンジしていく方が増えることを期待します。是非、マーケティングに対する取り組みを強く希望します。また、報告レポート等で「残された課題、今後の対応方向」とありますが、効果があつた取り組みを「今後、どうしていくのか」を明確にする項目を様式に取り入れてみてはと思ひます。(次につなげていく為、歯止め)。</p>	<p>・次年度計画においても「地域農業を担う経営感覚に優れた経営体の確保・育成」として地域重点課題に位置付けて、支援対象者の課題解決のため継続して個別伴走支援に取り組むこととしています。 ・なお、外部評価様式の項目については、効果的な外部評価に向け今後も検討していきます。(農業革新支援担当記載)</p>

「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」

第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、地域課題等の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

第2 普及指導計画の策定

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、4カ年を計画期間とする普及指導計画を策定する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画の策定に資するため、実施方針に掲げる普及指導活動の課題や「いわて県民計画」の各プランに則し、計画活動により解決する基本的な課題（以下「基本課題」という。）を設定する。
- 3 基本課題のうち、重要かつ広域的な課題を県重点課題として農業普及技術課が選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
また、基本課題のうち、地域において重要な課題を地域重点課題として農業改良普及センターが選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
- 4 農業普及技術課が策定する普及指導計画は「県重点プロジェクト計画」、農業改良普及センターが策定する普及指導計画は「地域重点課題普及指導計画」と呼称する。
- 5 普及指導計画は、普及指導方針及び課題別計画の構成とし、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す姿や目標を明らかにして策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて変更することができるものとする。

- (1) 県重点プロジェクト計画は様式第1号により作成し、地域重点課題普及指導計画は様式第2号により作成する。
- (2) 普及指導方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
- (3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。また、課題別計画ごとに工程表を作成する。

6 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、県重点課題又は地域重点課題以外の基本課題について、活動計画（以下「基本課題に係る活動計画」という。）を策定する。

なお、基本課題に係る活動計画は、参考様式によるほか、達成目標や達成手段・方法を明記した任意様式により策定するものとする。

7 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画の策定にあたって、次の内容に留意する。

(1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、農業普及員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。

(2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議し共有する。

(3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等の関係機関・団体、民間、県機関等と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。

(4) 県重点プロジェクト計画が広域的な課題解決に向け効果的な活動となるよう、農業普及技術課と農業改良普及センターの役割分担を明確にする。

8 農業普及技術課は、当該年度の県重点プロジェクト計画及び基本課題に係る活動計画を4月上旬までに農業改良普及センター、県庁農政担当課及び農業研究センターへ通知する。

なお、県重点プロジェクト計画（課題別計画：様式第1-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業改良普及センター等から意見を聞くものとする。

9 農業改良普及センターは、当該年度の地域重点課題普及指導計画及び基本課題に係る活動計画を4月中旬までに農業普及技術課へ報告する。なお、地域重点課題普及指導計画（課題別計画：様式第2-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業普及技術課の助言を受ける。

第3 普及指導活動の実施等

1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画及び基本課題に係る活動計画に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。なお、県重点プロジェクト計画については、明確化された役割分担に基づき農業普及技術課と農業改良普及センターが一体となって活動する。

2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により普及指導計画の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動

を計画的かつ効果的に実施するよう努める。また、基本課題に係る活動計画についても、計画的かつ効果的に実施するよう参考様式等により進捗管理する。

- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。
- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させる。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、毎年度、課題別に内部評価を実施する。
 - (1) 課題別評価は、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果を総合的に評価し、毎年度末までに取りまとめる。

また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第1-4号、様式第2-4号）により、計画期間における実績を総括して評価し、当該年度末までに取りまとめる。
 - (2) 農業改良普及センターは、内部評価結果として課題別単年度実績（様式第2-3号）を、毎年度末までに農業普及技術課へ報告する。また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第2-4号）を当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な評価を得、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、普及指導計画について、毎年度、第三者による外部評価を受けるものとする。
 - (1) 農業普及技術課は、外部評価を統轄し、外部評価委員会（以下「委員会」という。）の設置と、必要な予算措置を講ずる。
 - (2) 外部評価委員は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や外部有識者（農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等）から毎年度、一部に偏りが出ないよう5名以内を選任する。ただし、再任を妨げない。
 - (3) 委員会は、内部評価終了後の概ね2月中下旬に開催する。
 - (4) 委員会では、毎年度数課題を選定し、計画、活動方法及び成果、活動体制を評価する。
 - (5) 農業普及技術課は、委員会からの意見・提言等を当該年度末までに外部評価結果報告書（様式第1-5号、様式第2-5号）に取りまとめる。

- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部評価の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び委員会の意見等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。
- 5 農業普及技術課は、外部評価結果や成果等について取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部へ公表する。

第5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和3年1月27日から施行する。

附則

この要領は、令和4年9月29日から施行する。